

## KTF 社の概要

社名 KT Freetel Co., Ltd. (ケーティーフリーテル)

所在地 韓国 ソウル市

株主資本 31,828 億ウォン (約 3,692 億円) (2004 年 12 月 31 日時点)

President & CEO Cho, Young-Chu (チョー・ヨン・チュウ)

従業員数 2,493 人 (2005 年 9 月 30 日時点)

事業内容 韓国における移動体通信事業 (韓国シェア第 2 位)

契約者数 約 1,233 万人 (2005 年 11 月 30 日時点)

KTF (ケイティーエフ) は大韓民国の携帯電話事業者。KT の子会社である。

1996 年、韓国では新たに携帯電話用に、1900MHz 帯の周波数が割り当てられることに。その時、新規に市場に参入した KT 系の韓国通信フリーテルとサムスングループや建設・製紙会社のハンソルが出資するハンソル M ドットコムが 2002 年に合併し、KT フリーテル (KT Freetel) に。後に現在の社名に変更した。

韓国では携帯電話事業者ごとに事業者の固有番号が割り当てられてきたが、KTF は旧・韓国通信フリーテルに割り当てられた 016 と旧・ハンソル M ドットコムに割り当てられた 018 を使っている。韓国では今後、携帯電話の固有番号は 010 に統一される予定である。

技術としては 1900MHz で CDMA 方式を用いているほか、EVDO 方式を採用した第三世代携帯電話サービス (サービス名 : Fimm) を開始している。また、携帯電話サービスを親会社の公衆無線 LAN と融合させた Nespot というサービスも提供している。また、2000Mhz の WCDMA 方式と HSDPA 技術を用いた新しいサービスブランド、SHOW(ショー)を 2007 年 3 月から提供している。

韓国内のシェアは 30%強で SK テレコムに次ぎ 2 位。後発で市場に参入したほか、使用している周波数が障害物の影響を受けやすいこと (日本では PHS に使用の周波数)、すなわち音質に劣る点が SK テレコムの後塵を受けている。

ただ通話料金は SK テレコムよりも安く、利用マナーを訴える広告も多く出しており、ナンバーポータビリティ制度 (携帯電話番号を変更せずに、事業者を乗り換えることができる制度) 導入後は、徐々にシェアを上げている。

2007 年 3 月、全国に HSDPA 網補給率 99%を達成し、競争会社に先駆け新しい携帯電話サービス SHOW(ショー)を発表。国内での HSDPA シェアを 70%程度に引き上げることに成功した。

しかし、自社ユーザからの輸入ケースのほうが多かったせいか、SKテレコムのシェアを食い込むまでには至ってはいない。

子会社のKTFテクノロジーズ(KTFT、ブランド名:Ever)を通じ、自社向け端末の開発の他、海外への端末輸出も行っている。デジタル移動体放送(DMB)のサービスもSKテレコムに追いつき、サービスしている。

また2004年にはコスダック(店頭市場)から韓国証券取引所(現・韓国取引所へ株式を上場(証券コード:32390))。また韓国バスケットボールリーグ(KBL)に新球団、釜山KTFマジックウィンズを参入させてあり、2000年から長年eスポーツの名門ゲームチームとしてKTF Magicnsのスポンサーも務めている。

2005年末には第三世代サービスの強化に向けて、NTTドコモと資本提携を行うことに(KTの持分を売却)なった。ちなみにイメージカラーは皮肉にもKDDIのauと同じ、オレンジ色である。

#### ●韓国KTF社とNTTドコモが業務・資本提携契約を締結

<2005年12月15日>

NTTドコモ(以下ドコモ)と韓国の移動体通信事業者KT Freetel Co., Ltd.(本社:ソウル、President & CEO:Cho, Young-Chu、以下KTF社)は、本日、約5,649億韓国ウォン1(約655億円)の出資を含めた包括的な事業提携関係を構築することについて合意し、当該提携に関わる契約を締結致しました。ドコモはKTF社が発行する新株の引き受けおよびKTF社の自己株式を買い取るにより、同社の発行済株式の10%を今月中に取得します。

本出資および提携の下、ドコモは技術面で、KTF社のW-CDMAネットワークの韓国全土への展開を支援いたします。また、ドコモ・KTF社間において、事業・技術協力委員会(Business & Technology Cooperation Committee)を共同設立し、ローミングサービスの利便性向上、新規サービスの展開、関連機器の仕様の共通化によるコスト削減、KTF社によるW-CDMAネットワークの全国展開のサポートなどについて、事業協力の検討を行い、日韓両国における顧客利便性の向上を目指します。

KTF社およびKTF社の筆頭株主であるKT Corporation(以下KT社)の概要などは、以下のとおりです。

1 1ウォン=0.116円(2005年11月末時点)で計算。

#### ●韓国KTF、HSDPAサービス発表・ブランド名は「ワールドフォンビュー」

2006/06/29

佐々木朋美

ERP (SAP)を働きながら勉強できる。そんな職場 ここに 있습니다。 モスご招待券 5千円分が当たる！無線 LAN サービス ホットスポット 夏に登録→秋から高収入！SEなら 70%の案件が《月収 40 万以上！！》 <未開封の新品>富士通 PCサーバ 箱キズ品が 49,800 円 (税込) から

韓国の携帯電話キャリア大手 KTF は、30 日から HSDPA の商用サービスを開始すると発表した。韓国で HSDPA の商用サービスが行われるのは、SK Telecom(以下、SKT)に続き 2 番目のことだ。

KTF の HSDPA サービスは「ワールドフォン ビュー」というブランド名で、ソウルを始め全国 50 都市を対象にスタートする。同社では今年末までに、これを全国 84 都市に拡大する計画だ。KTF では「ワールドフォン ビュー」を通じて、4 つの新たなサービスを提供していく予定だ。その 4 つとは「見て楽しむ移動通信」「完全なグローバルローミング」「高速データサービス」「UICC 基盤の多様なサービス」となる。

「見て楽しむ移動通信」はテレビ電話や VOD などの映像サービスを指しており、「完全なグローバルローミング」では、これまで SMS や音声通話に限られていた海外ローミングのサービス内容を拡大すること、またデータ通信や MMS など全ての分野へ拡大することを示している。「高速データサービス」では、高速インターネットを活用したネットワークゲームなどを提供していくことになるという。

ちなみに HSDPA の対象外地域では、しばらくの間 CDMA2000 1xEV-DO 網でのデータ通信サービスを提供することとなる。

HSDPA の高速データ通信を利用し、テレビ電話を楽しんでいる様子

「UICC 基盤の多様なサービス」では、端末に加入者識別機能を始め、多様な機能を利用できる UICC(Universal IC Card)を搭載し、交通カードや会員カード、モバイルバンキングなどさまざまなサービスを提供していく予定だ。

この UICC は現時点では他社が製作したものを利用するが、下半期からは KTF が自社開発したものを利用し、より多様なサービスを提供していくという。ちなみに KT でも WiBro 用 UICC の開発を行ったが「現在は KTF の UICC と全く別のもの。ただ、今後これと統合する可能性はある」(KTF 担当者)ということで、WiBro との連動サービスも期待できる。

KTF では 2005 年 12 月に NTT ドコモと W-CDMA 活性化のための資本提携したほか、今年 4 月には「アジア・パシフィック・モバイル・アライアンス」に参加するなど海外企業との提携を積極的に進めてきた。これら一連の活動は、KTF のグローバルローミングサービスで活かされることになる。

KTF では日本、シンガポール、オーストラリアといったアジア地域とヨーロッパ地域などを含め、年末までにグローバルローミングの対象地域を 25 カ国に拡大する予定だ。また、HSDPA が商用化されていない GSM 地域に対しては、年末までに GSM ローミングを構築。90 カ国以

上でローミングが可能となるよう、対象地域を拡大する予定だ。

「ワールドフォン ビュー」に合わせて販売される端末は、Samsung 電子の「SPH-W2100」と LG 電子の「LG-KH1000」の 2 機種。これらは CDMA と W-CDMA の両方に対応しているの  
で、HSDPA の対象外地域では CDMA による通信が可能となる。

「ワールドフォン ビュー」に合わせて販売される Samsung 電子の SCH-W2100 と、通常の  
CDMA 端末とで、データ通信の速さを比べているところ。SCH-W2100 は地上波 DMB(モバイル  
用地上波デジタル放送。日本で言うワンセグ)の視聴も可能だ

ところで、KTF より 1 カ月以上も早く、SKT が 5 月から開始した HSDPA の商用サービス「3G+」  
はどうなっているのかといえば、広告は見かけるようになったものの、実際の利用者はまだまだ  
少数だ。というのは、SKT 用の HSDPA 端末である「SCH-W200」(Samsung 電子)が品薄で、  
入手困難な状態が続いているためだ。

そのため KTF が端末を通常通り供給できれば、HSDPA の加入者を SKT 以上に伸ばせるかも  
しれない。あとは、似たり寄つたりのサービス内容に、差別化が必要となりそうだ。

韓国の携帯電話キャリア KTF は 25 日、音楽ポータル「Dosirak(韓国語で「弁当」の意味)」サ  
ービスを開始した。これにより SK Telecom(以下、SKT)、LG Telecom(以下、LGT)も含めた韓  
国の 3 キャリアすべてが音楽ポータルを開設したこととなった。

●KTF もサービス開始で、韓国 3 キャリアすべての音楽ポータルが出揃う

2005/05/25

25 日にスタートを切った Dosirak は、有・無線のインターネットを通じて MP3 音楽をダウン  
ロードし、それをパソコンはもとより MP3 対応携帯電話(以下、MP3 フォン)や MP3 プレーヤ  
で楽しむことができるというサービスだ。配信される音楽には KTF 標準 DMB が適用されてい  
るため、それに対応した MP3 プレーヤのみでの利用が可能となる。対応 MP3 プレーヤは  
Samsung の「Yepp」、MPio、Cowon の「iAudio」の対応機種だ。

MP3 フォンで音楽を楽しむ方法は 2 種類ある。MP3 フォンでインターネットに接続し直接ダウ  
ンロードする方法と、パソコン用の音楽管理ソフト「Dosirak Player」を利用し、MP3 プレー  
ヤや MP3 フォンに転送する方法がそれだ。Dosirak Player では、曲の転送のほか、検索、購入、  
再生なども可能となっている。また「Web Player」を利用すれば、ダウンロードした音楽をイ  
ンターネット上で管理できるようになるため、Web メールのように他のパソコンからアクセス  
して、自分だけの音楽を聴くことができるようになる。

さらに料金制度も多様に用意されている。音楽鑑賞のみは 3000 ウォン(約 300 円)/1 ヶ月、音楽  
鑑賞とダウンロードをする場合は 5000 ウォン(約 500 円)/最初の 1 ヶ月(4500 ウォン(約 450 円)/2  
ヶ月目以降)で、曲数に制限なく鑑賞・ダウンロードができる。さらに 5000 ウォン(約 500 円)/30  
日、1 万 4500 ウォン(約 1450 円)/90 日、2 万 8000 ウォン(約 2800 円)/180 日、5 万 5000 ウォ  
ン(約 5500 円)/1 年という、細かな単位による定額料金も可能で、500 ウォン(約 50 円)で 1 曲ご  
とに料金を支払うこともできる。

このほか、音楽ブログ「My Music」、アーティストや音楽ジャンルなどの好みの合う仲間と会えるコミュニティ「Clubbing」のほか、音楽放送や高音質の音楽が24時間聴ける「音楽エナジー」など、多様なサービスを用意している。

Dosirak は他キャリアよりも後発だが、逆にその利を活かして他にはないユニークなサービスで、先行2キャリアを追い上げる考えだ。年末までには約30万人の会員を確保したい考えだという。それではライバルの他2キャリアのサービスはどうなっているのだろうか。有・無線のインターネット対応という基本的な仕組みにおいては、どのキャリアも同じである。ただし料金など細かな点において差別化がはかられているほか、キャリアごとに会員誘致の工夫もなされている。

LGT の MusicON は、パソコンに musicON MP3 Player をダウンロードすることで、パソコンと MP3 フォンで音楽を楽しめるサービスだ。同社では6月30日まで、音楽を無料ダウンロードできるイベントを行っており、それ以降の料金制度についてはいまだ未定だという。MusicON では他の音楽ポータル5社とも提携し、曲数やジャンルに幅をもたせる努力をしているが、それらの Web サイトで LGT 会員であるという承認を受けると、そこでも音楽が無料となる。また最近「Phone & Fun」というショップを街で多く見かけるようになったが、ここでは携帯端末の販売はもちろん、MP3 フォンを専用機器につないでの音楽の無料ダウンロードもできるようになっており、同サービスの普及に力が入られていることがうかがえる。

SKT の MelOn は、MelOn プレーヤを利用し、パソコン、MP3 フォン、MP3 プレーヤ(提携会社は「iAudio」の COWON)で音楽を楽しむことができるサービスだ。ダウンロード料金は KTF 同様、音楽鑑賞のみでは3000ウォン(約300円)/1ヶ月、ダウンロードの場合は5000ウォン(約500円)/最初の1ヶ月、4500ウォン(約450円)/2ヶ月目以降で、その他30日/90日/180日/365日あたりの料金も KTF と同じとなっている。SKT でもストリーミング1ヶ月無料体験イベントや、テレビ・デジタルカメラのプレゼントなどを通し、同サービスの PR につとめている。

Web サイト分析および評価を専門とする Rankey.com によると、無料音楽ポータル「Bugs Music」と、それ以外の有料音楽ポータル(Music ON、MelOn など含む)計20社の、4月における1日あたりの訪問者数を比べた場合、Bugs Music は約87万件であるのに対し、他20サイト合計では約81万件という数字が出されている。半年前、同様の調査を行った際は約115万件もの訪問数を記録していた Bugs Music だが、それ以降は数を減らし、逆に同時期約40万だった有料サイトがじわじわと近づいている形となっている。

LGT によると、国内の有料音楽市場は、2007年まで計6400億ウォン(約640億円)に達すると予想されている。構成は、ダウンロードおよびストリーミング2000億ウォン(約200億ウォン)、CDおよびテープ400億ウォン(約40億円)、着メロなどのモバイルの音楽関連コンテンツ4000億ウォン(約400億ウォン)となる。こうした韓国のデジタル音楽市場は、購入意思のある潜在顧客と、資本力のある大企業の積極的な参加・参入によって拡大すると見られており、KTF の

Dosirak サービスが開始された今後も、有料サイトのますますの躍進が見込まれる。

#### ●ドコモ、韓国 2 位のキャリア KTF に 655 億円出資

NTT ドコモは韓国の携帯キャリア KTF に、約 655 億円を出資すると発表した。委員会を設置して、事業提携も検討する。

NTT ドコモは韓国の携帯キャリア KT Freetel (KTF) に約 5649 億ウォン (=約 655 億円) を出資すると発表した。KTF が発行する新株を引き受け、かつ KTF の自己株式を買い取ることで、今月中に同社の発行済株式の 10%を取得する。

ドコモは技術面で、KTF の W-CDMA ネットワークの韓国全土への展開を支援する。また両社で事業・技術協力委員会 (Business & Technology Cooperation Committee) を共同設立して、事業協力を検討する。具体的にはローミングサービスの利便性向上、新規サービスの展開、関連機器の仕様の共通化によるコスト削減などを話し合うという。

KTF は、韓国内で 2 位のシェアを持つ移動体事業者 (11 月 18 日の記事参照)。契約者数は、11 月 30 日時点で 1233 万人を数える。韓国 1 位の固定通信事業者である KT が親会社となる。

韓国キャリア事情～3 キャリアの位置付けは？

隣の国とはいえ日本とは全く違う、韓国の携帯電話事情。大手 3 キャリア——SK Telecom、KTF、LG Telecom を概観する。

韓国は携帯電話の世界市場で大きなシェアを持つ Samsung や LG のお膝元であり、日本に負けず劣らぬ「携帯先進国」だ。

最先端技術をいち早く取り入れた端末のユニークさや、キャリア間の顧客獲得競争の熾烈さは日本以上ともいえる。それに技術開発力や社会的な事情が加わり、日本とも GSM 圏とも違った独特なケータイ文化が育まれている。そんな韓国のキャリアについて見ていこう。

韓国にある 3 つのキャリア

韓国の携帯電話人口は 3614 万人。現在、北朝鮮を除く人口が約 4500 万人なので、国民の約 3 分の 2 が携帯電話を持っている計算になる。

携帯電話のキャリアは SK Telecom、KTF、LG Telecom の 3 社で、全キャリアが au と同じ CDMA2000 方式を採用しているのが特徴。CDMA 1x EV-DO による高速通信サービスも日本より 1 年先駆けて行うなど、各キャリアが高度なサービスを競って展開されている点は、日本市場と似た状況ともいえる。

#### KT 母体の 2 番手～KTF

2 番目のシェアを誇るのが KTF だ。こちらは固定通信事業者最大手の KT (Korea Telecom、正式名称は KT。旧国営企業で民営化された、日本でいう NTT のような存在) が母体。KT が展開する無線 LAN サービス「Nespot」などと組み合わせた通信サービスなども行っている。

市場占有率は 32.3%と、SKT のほぼ 3 分の 2。常に SKT をライバル視しており、互いを意識

した広告合戦がよく繰り広げられている。SK Telecom や KTF のショップでにあるパンフレットを見ると、「KTF の料金は SK Telecom と比べてお得!」「SK Telecom のサービスは KTF より優れています!」といった露骨な広告文句が多数目につく。

KTF はバックボーンが強力なだけに、SKT に劣らない先進的なサービスも多く展開している。日本では au が採用している携帯電話向けアプリケーション・プラットフォーム「BREW」の商用サービス「magic n multipack」を世界で初めてスタートさせたほか、EV-DO を用いたマルチメディアサービス「Fimm」を SKT の「June」に先駆けて提供し、こちらも「世界初」の冠を勝ち取っている。

KTF は、NTT ドコモとよく似た、非常に優等生的な印象だ。マナーについての CM をよく打ち、メインキャラクターも、紳士的なイメージを持つベテラン俳優が務めている（ちなみにこの俳優は以前、SKT のキャラクターを務めた経験もある実力派）。

SKT ほどの高級感はないものの、サービス水準は SKT に決して劣っていない。料金も値ごろということで、高いブランド価値を求めない人や学生にも人気だ。また最近では、若い女性の間で人気急上昇中の若手俳優を CF キャラクターに起用し、カメラフォンや MP3 フォンなど、若い層へのマルチメディア端末普及に力を入れている。

#### ●2007年06月15日 20時19分 更新

韓国 KTF が HSUPA サービスを開始

韓国 KTF が韓国主要都市に HSUPA ネットワークを構築した。当初の通信速度は上り最大 1.45Mbps だが、2008 年上半期中に全国で上り最大 5.76Mbps の HSUPA サービスを開始する予定だ。

KTF の HSUPA 商用サービス 10 月開始予定。写真のような USB モデムを利用する 韓 KTF は 6 月 14 日、HSUPA ネットワークの構築を完了し、接続試験に成功したと発表した。ネットワークが構築されたのは、ソウル・釜山・大田・光州・大邱といった韓国の主要都市。このエリアでは専用の USB モデムを PC に接続し、HSUPA の上り最大 1.45Mbps という高速通信を利用できる。ただし、USB モデムはまだ試験機で、一般ユーザーが HSUPA サービスを利用するのはまだ先のことだ。

KTF は 2007 年 10 月から HSUPA の商用サービスを開始するとアナウンスしており、エリアも他の主要都市や広域市（ソウル特別市に次ぐ広域の行政区域で、通常の市より規模が大きい）、その他の地域まで広がる予定だ。

さらに 2008 年第 1 四半期には専用端末が登場し、首都圏および広域市で上り速度を 5.76Mbps に高速化。また 2008 年第 2 四半期には、郡部へとカバレッジを広げ、全国サービスを目指すという。KTF はこのサービスを「HSPA+ (HSPA Evolution)」や「LTE」というように段階的に進化させる方針だ。

KTF は HSUPA 網の構築により、高速・高品質のデータサービスだけでなく、IMS (IP Multimedia Subsystems) 基盤のコミュニケーション型複合サービスを強化したコンテンツを提供することになるという。

具体的には、動画・写真の投稿サイトやブログ、ビデオ共有サイト、大容量ファイルのアップロード、高品質 MMS やマルチメディアインスタントメッセージャー、3D オンラインゲームなど、スピードと帯域を必要とするリアルタイムコミュニケーションサービスを拡大提供する計画だ。

ライバル、SKT の動きは

一方、ライバルの SK Telecom (以下、SKT) は、5 月中旬に HSUPA 網の構築計画を明らかにしている。6 月中に釜山の一部地域でネットワークの構築を開始し、2009 年までに全国へ拡大する予定だ。

当初の上り速度は最大 1.45Mbps で、2008 年にはエリアをソウルを含む首都圏へ拡大し、上り速度を 5.78Mbps まで高速化。その後、2008 年中に全国 23 都市、2009 年には 84 都市まで拡大する予定だ。

SKT は、2007 年 10 月に 2Mbps クラスの USB モデム、2008 年 2 月に 5.76Mbps クラスの USB モデム、そして 2008 年第 1 四半期には HSUPA 専用端末を販売するという。

現在公表されているプランでは、KTF の方が SKT よりもいち早く全国サービスを開始することになる。SKT は HSDPA の全国展開も KTF から遅れ、HSDPA 加入者数で KTF に 1 位の座を奪われている。HSUPA サービスでは KTF の動きにあわせ、ネットワーク構築を早めて対抗してくる可能性は十分に考えられるだろう。

HSDPA・HSUPA の先行で勢いに乗る KTF だが、加入者数の維持はこれからが正念場だ。SKT の追撃も考えられ、ネットワーク構築後は加入者を逃さないような、魅力的なコンテンツ作りが課題になるだろう。

## ●ノート PC を使って HSDPA 接続 - 韓国でサービス競争激化

2007/02/02 佐々木朋美

韓国 2 位の携帯電話事業者の KTF は 1 月に「iPlug」というサービスを開始した。iPlug 専用モデムを利用すれば、ノート PC など下り 3.6Mbps の HSDPA 網に接続できるというサービスだ。

iPlug のモデムは USB 接続に対応しているので、基本的に USB 端子を有するデバイスで、かつ Windows 2000 / XP を搭載していれば利用することが可能だ。モデムの価格は 17~18 万ウォン(約 21,000~23,000 円)程度となる。

また、料金制はデータ通信量によって異なる。1GB の通信量が無料提供される「W ネットデータベーシック」は 29,500 ウォン(約 3,700 円)/月、2GB の通信量が無料提供される「W ネットデータスペシャル」は 44,500 ウォン(約 5,700 円)/月となる。



さらに KTF は LG 電子と提携して、HSDPA モデム内蔵のサブノート PC を 2006 年 11 月に販売するなど、自社の HSDPA サービス拡大に熱心だ。

#### iPlug のモデム

LG 電子と KTF が提携して開発した HSDPA 対応サブノート PC 「A1 シリーズ」

一方、韓国最大手の携帯電話事業者 SK Telecom(以下、SKT)は、かなり早い時期から同様のサービスを提供している。それが 2006 年 9 月からスタートしている「T LOGIN」だ。

これも基本的には USB 対応の専用モデムを利用し、さまざまなデバイスで HSDPA 網に接続できる。料金は、29,900 ウォン(約 3,800 円)/月で 1GB 相当のデータ通信料が無料となる「レギュラー料金制」、45,000 ウォン(約 5,700 円)/月で 2GB 相当のデータ通信量が無料となる「プレミアム料金制」とがある。

女性が手にしている PDA の左側に差し込まれているのが T LOGIN のモデム

Samsung 電子の T LOGIN 対応 UMPC「Q1B-HSDPA」と、サブノート PC の「Q40-HSDPA」ただし、SKT のサービスは下り 1.8Mbps の HSDPA 網に接続するものであり、HSDPA 網でない地域では CDMA2000 1xEV-DO 網へ接続を切り替えながら、接続を維持するものとなる。

HSDPA の対応地域も、サービス開始当初は KTF より少ない全国 25 都市だった。当時、SKT は「2006 年のなるべく早い時期に、全国 84 カ所にこれを拡大したい」と述べていた。

SKT はさまざまな対応デバイスの開発も熱心に行っており、Samsung 電子と協力し、T LOGIN のモデムが内蔵されている UMPC(Ultra Mobile PC)も発売している。

2007 年には T LOGIN モデムを内蔵したデジタルカメラを発売予定であるほか、インターネットを利用しながら各種サービスを受けられるような、サービス連携型の車載機器も開発したいと述べている。専用モデムは今後、高速無線通信規格 WiBro にも対応する予定だ。

いつでも・どこでも高速通信が利用できるという長所を活かした 2 つのサービス。インターネットの通信速度に相当のこだわりがある韓国ユーザーには概ね好評のようだ。

実際、T LOGIN は 2006 年 12 月に会員が 3 万人を突破している。これはサービス開始時に 24 万ウォン(約 30,000 円)相当のモデムを無料で配布するという拡大戦略をとっていたのが成功の要因かもしれない。

3G、4G にかける、SKT および KTF の意気込みは相当なものだ。とくに KTF は「HSDPA で SKT を抜き、万年 2 位という企業イメージを払拭したい」と意気込みを語るほど、HSDPA 分野における競争は激しさを増している。

現在のところ、KTF による 3G 網は全国 84 都市で展開中だが、3 月頃には全国に拡大される。また、SKT の全国網は 2007 年上半期を目標としていたものの、これが 5 月に早められ、急ピッチでの全国網構築が行われている。

3G での勝者はどちらになるのか。2007 年はそれを決定する大事な年であるといえる。

#### ●韓国 KTF 社との「HSDPA 対応 USB 型端末」の共同調達について

<2007 年 7 月 13 日>

NTT ドコモ（以下ドコモ）と韓国の移動体通信事業者 KT Freetel Co., Ltd.（本社：ソウル、President&CEO：Cho, Young-Chu、以下 KTF）は、HSDPA 対応 USB 型端末を共同調達に向けて開発いたします。

本端末は、ドコモと KTF 間で共同設立した事業・技術協力委員会（Business & Technology Cooperation Committee）において、両社における端末共同調達プロジェクトの一環として開発する端末となります。本端末は、日本市場において FOMAR 端末「FOMA A2502 HIGH-SPEED」として 2007 年秋頃の発売に向けて準備を進めてまいります。

「FOMA A2502 HIGH-SPEED」は、直接パソコンの USB 端子に接続して通信を行なうことができるデータ通信専用の端末で、FOMA ハイスピード（HSDPA）対応による高速なデータ通信と、国際ローミング（3G）対応により、海外でのデータ通信が可能となる予定です。

#### 「HSDPA 対応 USB 型端末」の概要

##### ■主な特長（予定）

USB インターフェースを有する WindowsR 対応 PC（デスクトップ PC およびノート PC）で利用可能。

FOMA ハイスピード（HSDPA）エリアでは受信時最大 3.6Mbps の高速データ通信が可能。国際ローミング（3G）に対応。

##### ■主な仕様（予定）1

形状 USB 接続型

寸法 高さ約 80mm×幅 37mm×厚さ 12mm

質量 約 45 グラム

音声通信 非対応

通信速度 FOMA ハイスピードエリア 送信最大 384kbps／受信最大 3.6Mbps

FOMA エリア 送受信最大 384kbps

対応 OS（各日本語版） Windows Vista™

WindowsR XP Professional

WindowsR XP Home Edition

WindowsR 2000 Professional

#### ●ネット連携に共通プラットフォーム、韓国携帯市場の 2007 年後半戦を占う

2007 年前半、韓国では HSDPA の全国サービスが始まり、キャリアのシェア変動が起こった。後半戦となる下半期は、これまでにないサービスの開始や、共通プラットフォームの導入が争点になりそうだ。

2007 年もすでに後半に入った。今年の韓国携帯電話市場は、HSDPA の全国サービス開始などにより、キャリアの力関係に変化が見られた。環境面がひと通り整った 2007 年後半戦は、ユーザーサービスやプラットフォームの共通化など“中身”が争点になりそうだ。

他社との共同サービスを進める KTF

「ADU-620WK (FOMAA2502 HIGH-SPEED)」。下り最大 3.6Mbps で、国際ローミングにも対応。第 4 四半期中に販売開始する 7 月初旬、KTF の HSDPA サービス「SHOW」の累積加入者が 100 万人を突破した。5 月中旬の 50 万人突破から、2 カ月弱で約 50 万人の会員を確保したことになる。

KTF によると、SHOW 加入者の ARPU は 4 万 3019 ウォン（約 5700 円）で、2G 加入者の 3 万 8665 ウォン（約 5100 円）より 11.3%高い。テレビ電話は、加入者全体の 35.6%程度が利用し、その後も増加傾向にあるという。同社はユーザーの“量”だけでなく、“質”も向上していると強調する。

KTF の今後の課題は、獲得した会員をいかにつなぎとめ、新規会員をどう取り込むかにある。そのため、新しい料金制や映像関連サービス、端末とローミングサービスの拡充を目標として掲げた。中でも注目なのが、マイクロソフトとの提携だ。

両社は、携帯電話と PC の連動サービスを共同開発する契約を交わしている。手始めに、携帯電話で撮った写真や動画をインターネット上にアップロードできるサービスを拡大。その後、IPTV やホームネットワークといったサービスへと応用する方針だ。今後も、注目度の高いサービスが生まれることが予想される。

また先日は、NTT ドコモと共同で HSDPA モデム「ADU-620WK（日本名は FOMA A2502 HIGH-SPEED)」を調達すると発表した（7 月 13 日の記事参照）。これは、KTF の「iPlug」や SK Telecom（以下、SKT）の「T LOGIN」と同様、USB 接続型の端末でノート PC などでも HSDPA 通信を可能とするものだ。

KTF によると、これは両社が 2005 年末に資本提携した際に設立した「BTCC」（Business & Technology Cooperation Committee：事業・技術協力委員会）（2005 年 12 月の記事参照）による、端末共同調達プロジェクトの一環として開発された最初の端末なのだという。

音声端末では、「WIPI on BREW」というプラットフォームを搭載した携帯電話を近く発表する予定だ。これは、プラットフォームに BREW を採用し、その上で WIPI 対応アプリを動かす技術。これにより BREW と WIPI 両方のコンテンツに対応できるようになる。

KTF にとっては、対応コンテンツの幅を広げるためにも、海外でも広く商用化されてもいる BREW の導入は必要で、SHOW サービス拡大の鍵となる部分だ。コンテンツプロバイダとしては、コンテンツを BREW 対応させることで海外進出への道も開かれるかもしれない。

インターネット機能で追いかける SKT

SCH-M620。e メールサービスは 3000 ウォン／月（約 400 円）、モバイルメッセージャー 2.0 は 5000 ウォン／月（約 660 円）の定額料金制 図らずも KTF を追う立場になった SKT は、7 月に入り立て続けに新サービスを発表している。そこからは、インターネット関連サービスに力を入れる姿勢が見て取れる。

網開放事業（2006年12月の記事参照）に力を入れる同社は、「Open i」サービスを開始した。これはSKT独自のインターネットサービス「NATE」とは別に、コンテンツプロバイダ側で運用している網開放サイトを、簡単に検索できるゲートウェイサイトだ。

SKTによると、現在網開放サイトはポータルから金融、ショッピングモール、タクシー、花の配達まで約500以上あるという。Open iでは、この中から好みのサイトを見つけられるよう、多くのアクセスを集める人気サイトをトップ画面に表示。ユーザーごとのブックマーク機能も提供する。

このほか、韓国でも販売が開始されたQWERTYキーボード搭載のSamsung電子製スマートフォン、「ブラックジャック」こと「SCH-M620」向けメールサービスも開始している。

ブラックジャックはもともと、2006年にSamsung電子が米Cingular Wireless向けに提供した端末だ。この端末に合わせて提供されたのが「eメールサービス」と「モバイルメッセージャー2.0」だ。

eメールサービスは、携帯電話のメニュー画面にメールソフトを搭載したもので、メールチェックのためにわざわざインターネットに接続する必要がなく、SMSのように自動受信した後アラーム音で通知してくれる。Microsoft Officeの文書や静止画などのファイルを利用でき、アカウントも5つまで登録可能と、PCでメールを使うような環境を提供する。

モバイルメッセージャー2.0は、テキストだけでなく、静止画や動画も共有できるマルチメディアメッセージャーサービスだ。例えば、チャット中に撮影した動画を、チャット相手にもリアルタイムで見せることができる。このサービスは今のところ、SKTの会員同士で可能だが、2008年には他社ユーザーとの連動も可能にするという。さらにこの2つのサービスは、今後発売されるすべてのW-CDMA携帯に搭載する予定だという。

またSKTは、SK TellinkなどのVoIP3社と提携し、VoIPと携帯電話間のテレビ電話による通話サービスも開始した。さらに携帯電話以外の端末でもHSDPA通信を可能にするT LOGINのモデムに、下り最大7.2Mbpsまで対応する新モデルを追加することも発表した。

プラットフォームにおいては、なんとSKTとLG Telecom（以下、LGT）が協力している。両者はSKTが独自開発したUIプラットフォーム「T-PAK」の共同利用について、MOU（Memorandum of Understanding：技術交流についての覚書）を締結した。

下り最大7.2Mbpsの通信が可能なT LOGINモデム。7.2Mbps通信が可能なのは、ソウルおよび近郊の一部地域のみ。既存の同型のモデムのソフトウェアをアップグレードするだけでも7.2Mbps通信に対応する。T-PAKは、メーカーが提供するアプリケーションやキャリアの各種コンテンツやソリューションをWIPI上で1つに結びつけるパッケージ型プラットフォームだ。例えば、携帯ナビの「NATE Drive」を新たに提供する場合、従来なら端末製造時に必要なアプリケーションをWIPI上にポータリングする必要があった。しかしT-PAKを利用すれば、ユーザーがアプリケーションをインターネットを通じてダウンロードするだけでアップグレードでき、端末を機種変更しなくてもサービスの更新が可能になる。T-PAKは、韓国だけでなく世界

展開も目標に開発した SKT の意欲作で、最初の搭載端末は 8 月に Motorola から登場する予定だ。

今回結ばれた MOU の期限は 2010 年 7 月までで、それまでに両社が共同のタスクフォースを作り開発を行う。2 社が協力することで T-PAK の普及が速まるだけでなく、LGT と SKT のコンテンツ共有が進み、ユーザーの利便性も向上しそうだ。ただこの T-PAK は、KTF の WIPI on BREW に真っ向から対抗する存在であり、プラットフォームの覇権争いに発展しそうな様相を呈している。

2007 年前半は、KTF の勝利で終わった HSDPA の市場競争。後半はこのまま優位を維持したい KTF と、なんとか追い越したい SKT とでさらに激しい争いが予想される。また LGT は EV-DO Rev.A を 2007 年末頃までに開始するといわれており、先の見えない緊張状態が続くと思われる。

#### 韓●国 KTF、HSDPA サービスを開始

Filed under : 海外市場 ? hkyamane @ 23:20:00

#### 韓国 KTF、HSDPA サービスを開始 - FMOBILE

KTF が SK Telecom に引き続き HSDPA を開始！ 50 都市、端末 2 種類とかなりやるき満々のようです。とはいえまだまだ機種を選べるものではないので、普及には時間はかかるでしょうけどね。また HSDPA ならではのサービスは「課金上限ありのパケット定額」くらいかな？（現状 EV-DO のパケットプランがちょっと不明なのですが...）。まあキャリアとしてはとにかく「パケットをより使ってもらう」ことで、新しいビジネスをはじめようとしている、ということなのかと思いますが。

年内に韓国へ行ってどのような状況なのか見てみたいものです。W-CDMA の時よりも端末もカバーエリアもまともなので、そこそこの人気になっているかもしれません。

#### さまざまな加入促進策や新サービスが登場——韓国の HSDPA サービス (1/2)

韓国では、日本より一足早い 2006 年 5 月から HSDPA サービスが開始された。利用者数はまだあまり多くないようだが、キャリアのさまざまな施策によって、HSDPA の知名度は徐々に上がってきている。

2007 年 03 月 08 日 11 時 32 分 更新

韓国で HSDPA の商用サービスが開始されてから、早くも 10 カ月以上が経過した。現在のところ市場に大きく広まり定着したという実感は沸かないものの、少しずつ知名度を上げてきているようだ。それはキャリアによるサービスや端末面での一工夫によるところが大きい。

#### 韓国の HSDPA サービスの現状

現在、韓国で HSDPA サービスを行っているのは、SK Telecom（以下、SKT）と KTF だ。SKT は 2006 年 5 月中旬に HSDPA サービス「T 3G+」を開始し（2006 年 6 月の記事参照）、KTF は翌 6 月に「World Phone View」をスタートさせた（2006 年 7 月の記事参照）。

当初、SKT ではソウルなど主要都市を含む全国 25 カ所で、KTF では全国 84 カ所でサービスを開始したが、その後急ピッチでネットワーク構築を行っており、2007 年 3 月中には SKT、KTF とともに全国網の構築を終了させると宣言している。

ただ、いくら HSDPA で高速な通信が行え、ネットワークを構築してどこでも使えるようにしても、端末やサービスに魅力がなければ加入者は集まらない。そこで両社ではさまざまな端末で HSDPA を活用できるようなサービスを提供し始めている。

#### 「T LOGIN」と「iPlug」

SKT の「T LOGIN」は、USB 端子のついた専用モデムを装着することで、ノート PC などでも HSDPA が楽しめるというサービスだ。HSDPA サービスの開始当初は専用モデムを無料配布するという思い切った作戦をとった。これが功を奏してか、サービス開始から 7 カ月が経過した 2006 年 12 月時点での加入数は 3 万以上に達した。

また先ごろスペインで行われた「3GSM World Congress 2007」では、この T LOGIN の国際ローミングのデモが初めて行われた。SKT は今後、この T LOGIN のエリアを W-CDMA 対応国に順次広げていきたいとの意向だ。

**KTF の iPlug に利用する USB 接続の HSDPA モデム** 2007 年 1 月には、KTF も T LOGIN に負けじと同様のサービスを開始した。それが「iPlug」だ。iPlug も T LOGIN 同様、専用モデムを使用しノート PC などでも HSDPA 通信を利用可能にするサービスである。

ただ、表向きは一緒のような両者には、微妙な違いもある。T LOGIN は下り 1.8Mbps の HSDPA 網と CDMA2000 1xEV-DO 網とを切り替えながら提供するのに対し、iPlug の場合は全面的に下り 3.6Mbps の HSDPA 網を提供している。また両社の料金制を比べてみると、後発の iPlug の方が T LOGIN を意識してか若干安いことが分かる。

さらに先の 3GSM World Congress 2007 で KTF は、スペインの Telefonica および英 Vodafone と W-CDMA のローミングサービスを行うと発表。同時に、仏 Orange、伊 H3G、スイスの Swisscom といった企業と W-CDMA ローミングに関する提携を結んでいる。

現時点では先発の T LOGIN がより多くの会員を集めているが、KTF でもより強化したサービス内容でこれに対抗しようとしている。専用モデムを提供する HSDPA サービスは、これからが本当の勝負であるといえる。

#### さまざまな加入促進策や新サービスが登場——韓国の HSDPA サービス (2/2)

2007 年 03 月 08 日 11 時 32 分 更新

[前のページへ 1 | 2](#)

**HSDPA モデム内蔵のノート PC など、携帯電話以外にも幅広く展開**

韓国では、HSDPA 対応端末は携帯電話だけではない。SKT も KTF も、HSDPA モデムを内蔵したデバイスをいくつか販売している。

SKT は Samsung 電子と共同で、2006 年に HSDPA 対応 UMPC「Q1B-HSDPA」とサブノー

ト PC「Q40-HSDPA」を販売している。どちらも SKT の T LOGIN に加入することで HSDPA による通信が利用できる。

Samsung 電子の代理店に行けば、購入時に T LOGIN の加入まで一括で済ませられるというサービスぶりは、両社の提携のたまものだ。

Samsung 電子の「Q1B-HSDPA」(黒い方)と「Q40-HSDPA」(白い方)。価格は前者が 110 万ウォン(約 13 万 5000 円)程度、後者が 230 万ウォン(約 28 万 3000 円)程度。

一方 KTF では、LG 電子と提携して HSDPA モデム内蔵のサブノート PC「A1 シリーズ」を販売している。LG 電子と KTF は 2005 年に CDMA2000 1x EV-DO モデムを内蔵したサブノート PC を販売したことがあるが、それ以来両社の提携は続いているようだ。LG 電子では今後もこうしたラインアップの拡大に努めるといふ。

LG 電子の「A1 シリーズ」。重さは約 1 キロと軽量だ

ノート PC のほかにも両社では、ポータブルマルチメディアプレーヤーやデジタルカメラなど、さまざまなデバイスに HSDPA モデムを内蔵したモデルを販売していく予定だ。

#### HSDPA の利用を促進する数々のサービス

韓国では、2 月 17 日から 19 日までが旧暦の正月だ。この間は日本の正月同様、帰省する人が多くなり道路も渋滞が続く。こうした旧正月を狙って SKT では、2 月 15 日から 21 日までの 1 週間、HSDPA 加入者全員を対象に全国 62 の主要高速道路の映像をリアルタイムで配信する「VU 交通情報」サービスを無料で提供し、HSDPA の利便性をアピールした。

また KTF では、携帯電話で PC 用の検索サイトを利用できる「Mobile Web Surfing」サービスを開始した。同サービスで提供する専用ブラウザをダウンロードすれば、携帯電話で PC 用の Web サイトを閲覧可能になる。このブラウザは携帯電話向けに、画像のみ表示/テキストのみ表示/拡大・縮小といった機能を備えている。

韓国の PC 用サイトは Flash や画像などを多用し、比較的重たいものが多いのだが、HSDPA の高速通信網を利用すればこうした Web サイトでもあまり苦にすることなく閲覧できる。Mobile Web Surfing サービスは、とくに HSDPA 加入者のみを対象とするものではないが、KTF ではこうしたサービスを通じて HSDPA 加入者を増やしていきたい考えのようだ。

負はこれからが本番

KTF は 1 月に行われた記者会見で「HSDPA で、毎年 2 位の座を脱出し、1 位を奪還したい」と宣言した。

このとき KTF では設備投資に 1 兆ウォン(約 1200 億円)を投じる計画であるとともに、W-CDMA 加入者も 180 万人にまで増やしたいとの目標を語った。2008 年以降の設備投資額は約 7000~8000 億ウォン(約 860~980 億円)以下というから、今年は設備投資にかなりの額を割り当てていることが分かる。同時に SKT を抜いて 1 位にという同社の意気込みが見える。

これに負けていけないのが SKT だ。当初 SKT は HSDPA の全国網構築時期を 2007 年上半期中としていた。それが後に 1 カ月早まった 5 月となり、最近になってこれを 3 月に修正した。

KTFには何としても負けられないという意気込みが感じられる。

SKTの場合は2007年の設備投資費用として計1兆5500億ウォン（約1900億円）を見込んでいる。うちHSDPA関連には6100億ウォン（約750億円）が投資される予定だという。

現在、実際に韓国の街を歩いていて、HSDPA対応の携帯電話で動画サービスなどを利用している人を見る機会はまだそれほど多くない。KTF、SKTとも2006年は“HSDPAサービスを開始する”ことにもっとも大きな意義を見出していたようで、サービス展開やユーザー確保に本腰を入れ始めたのは2007年からという状況だ。とくに3月の全国網構築以降は激しい戦いが予想され、それだけにHSDPAの知名度や利用率も伸びることが予想される。この頃には、先に出たようなHSDPA対応端末やユニークなサービスも、よりバラエティ豊かになっていることが見込まれる。

### ●基地局破壊までエスカレート——KTFがSKTを逆転！ 加熱するHSDPA覇権争い（1/2）

KTFは4月中旬、同社のHSDPAサービス「SHOW」の加入者が30万人を突破したと発表した。これは韓国No1キャリアであるSKTのHSDPA加入者数を上回っており、大きな話題となった。

ついにKTFがSK Telecom（以下、SKT）を追い抜いた。

KTFのHSDPA加入者数が、SKTのそれを上回ったのだ。KTFは3月からHSDPAブランド「SHOW」の宣伝に心血を注いでおり、そのかいあっての逆転劇となった。しかし市場占有率ではSKTがいまだトップであり、この5月から本格的にマーケティング戦略を展開している。韓国全土でHSDPAサービスの激しいぶつかり合いが繰り返されている。

#### KTFがSKTに逆転勝ち

KTFは4月中旬、同社のHSDPAサービス「SHOW」の加入者が、30万人を突破したと発表した。これは同じ時期に20万人強と推測されているSKTのHSDPAサービス加入者数を上回る数値だ。不動の1位と考えられていたSKTを、KTFが追い越すという逆転劇は、業界でも大きな話題になっている。

SHOWの加入者数増には、ある特徴がある。「2月末まで、HSDPA加入者は6万4000人程度に過ぎなかった」とKTFが明らかにしているように、3月以降に急激に加入者を増やしているのだ。

同社は2006年6月末に初のHSDPAサービスを、2007年3月1日にはその全国サービスを開始した。サービス開始当時の盛り上がりはいまひとつで、宣伝も今と比べると少なく、HSDPAサービスの開始を知る人もわずか。全国サービスでもなかったため、一部のアーリーアダプタが興味を示すという状態だった。

しかし3月1日、KTFがSKTに先駆けて全国サービスを開始。同時に激しいマーケティング攻勢を展開した。ブランド名である「SHOW」を浸透させるため、ロゴマークやショップデザインを一新。街のいたるところでSHOWの看板が見られ、テレビやWeb上の広告も積極的に打ってきた。



とくに「安価な HSDPA 携帯」として有名になった「LG-KH1200」は、KTF によると「14 歳未満の未成年や、40 代以上の女性が加入することが多い」という。インターネットができないという特徴から、子どものネット利用を制限したい親など、ネット機能を求めない層からの需要が拡大している。

また、KTF の親会社である KT が SHOW 対応端末機の販売応援を行っている。同社では KTF 端末の販売に以前から携わっており、これを HSDPA 分野にも拡大したものだ（2006 年 2 月の記事参照）。

このほか、SHOW ブランドデザインによるメモ用紙などノベルティグッズが同梱された限定版の端末パックや、テレビ電話料金の値下げ、SHOW 専用メンバーシップ、各種イベントを次々開催するなど、総力戦を行った。その結果 SHOW は、SKT の HSDPA サービス「T 3G+」をしのぐ存在感にもなった。

SHOW 端末デザインパック。箱および、おまけとして同梱されるメモ用紙などが SHOW のブランドデザインになっている。携帯電話は SHOW 対応のものから自由に選べるが、デザインパックにできるのは各機種で 1 万台限定となる

SHOW のメンバーシップカード。スターバックスコーヒーでのモーニングコーヒーが年 6 回まで無料など、通常のメンバーシップカードよりも恩恵が多いのが特徴だ

ところで KTF は 4 月下旬に、2007 年第 1 四半期の成績を発表した。これによると売上額は 1 兆 3334 億ウォン（約 1731 億円）で、前年同期比で 5%増加した反面、営業利益は 1007 億ウォン（約 130 億円）で前年同期比 41.1%も減少することとなった。マーケティング費用は 3691 億ウォン（約 480 億円）で、前年同期比 35.8%、前期比 26.2%も増加する結果となっている。加入者数増加は KTF の売上に貢献したものの、加入者を確保するためのマーケティング・営業費用がかなりの負担となっていることがうかがえる。

## ●基地局破壊までエスカレート——KTF が SKT を逆転！ 加熱する HSDPA 覇権争い (2/2)

前のページへ 1 | 2

### 競争加熱で基地局破壊

HSDPA のサービス争いが過熱するあまり、ライバルキャリアの基地局を破壊する事件も起きている。

4 月中旬、韓国の地方都市で、KTF の基地局が破壊される事件が起こった。犯人として逮捕されたのは SKT の基地局管理会社に勤める社員で、KTF の基地局設備に侵入し破壊した疑いがかけられている。当然、基地局が破壊されたことでエリア内の KTF 端末が不通となり、不審に思った KTF 社員が点検に向かった際に、車で逃走する犯人を目撃したという。

事件以前に発生した SKT の HSDPA サービスの電波障害が、KTF の基地局が原因と判断しての犯行だった。

この事件に対し KTF は、SKT を提訴する方針を明らかにしている。しかし、「加害者が心から反省し謝罪をすれば、告発を取り下げる」（KTF）ともコメントしている。

## SKT もサービス攻勢

KTF に対し劣勢が続く SKT だが、現状から脱却するべく、5 月 1 日から本格的なマーケティング攻勢に出ると宣言した。

料金制では、HSDPA の加入者に対し 3 カ月間で 18 万ウォン（約 2 万 3000 円：1000 分の通話料に相当）を無料提供するプロモーションを開始。また「ting 映像定額制」「映像指定番号定額制」という 2 つの新料金プランも発表した。

両者とも月額基本料は 5000 ウォン（約 650 円）だが、ting 映像定額制は 18 歳以下の未成年のみが加入できる料金プランで、50 分と 9000 ウォン相当（約 1160 円）のテレビ電話通話が行える。映像指定番号定額制は、指定した番号（最大 6 回線）に対し、60 分と 1 万 800 ウォン相当（約 1400 円）のテレビ電話がかけられるプランだ。いずれも未成年や複数の仲間など、より多くの人にテレビ電話を利用してもらいたいという意図が見て取れる。

さらに SKT のメンバーシップ会員を対象に「T ポイント制度」も開始した。これはレストランや銀行、コンビニなどの同サービス加盟店で決済をした際、最大 8% のポイントが加算され、これを携帯電話の購入や通話料決済、コンテンツ購入などに活用できるというものだ。

昨今、韓国ではキャリアのメンバーシップサービスは縮小しており、SKT の場合は社会人向けの「UTO」カードや、女性向けの「CARA」カードがなくなったほか、メンバーシップサービスの花形だった映画館割引も、適用されない映画館が出てきた。縮小の要因として、加盟店とキャリアの間で負担額の折り合いが付かなくなったと伝えられている。そのため、加盟店での料金割引ではなく、端末購入や通話料支払いの割引に使えるキャリアのポイントサービスへと移行しているという。

さらに SKT では、上半期中に HSDPA 携帯 4 機種をリリースするというアナウンスも行っている。

実際にはまだまだ SHOW の存在感が SKT の HSDPA サービスを上回っているが、SKT のマーケティング攻勢によって逆転も十分にありえる。追う側追われる側とも必死の競争は、今始まったばかりだ。

2005/05/02 00:27 更新

### ●韓国携帯事情：

目線はすでに 3.5 世代へ——韓国 W-CDMA サービスの現状 (1/2)

主要携帯 3 キャリアがすべて CDMA2000 をメインにサービスを提供する韓国。しかし細々とだが W-CDMA サービスも始まっている。

先週、Samsung から W-CDMA/CDMA2000 のデュアル端末「SCH-W120」が登場した（4 月 18 日の記事参照）。韓国では 2003 年末から、SK Telecom（以下、SKT）と KTF が商用サービスを開始している。現在、どんな状況なのだろうか。

意外と少ない加入者

韓国では、これまで CDMA2000 方式を全面的に採用してきた。政府機関の情報通信省によって

W-CDMA 方式が採択され、同機関から承認を受けた SKT と KTF が商用サービスを開始したのは、2003 年 12 月 29 日のことである。現在、ソウル市とその郊外にある京畿道の一部地域でサービスが提供されている。

マスコミも「テレビ電話の実現」と取り上げ、一時世間をさわがした。情報通信省も SKT と KTF に対し、2004 年までに 4 兆 500 億ウォン（約 4050 億円）を投資しており、今年も 5 兆 500 万ウォン（約 5050 億円）、2006 年上半期には 1 兆 1000 億ウォン（約 1100 億円）をさらに投資する予定だ。2005 年は SKT は 6000 億ウォン（約 600 億円）、KTF は 3000 億ウォン（約 300 億円）を、それぞれ W-CDMA に投資し、環境整備に努める。また 2006 年までに同サービスの対応地域を、SKT は 84 カ所 20 万会員、KTF は 45 カ所 5 万会員に拡大する見込みだ。

しかし W-CDMA 加入者は、SKT、KTF 合わせて数千人レベルと驚くほど少なく、試験サービスレベルとしかいいようがないのが現状だ。

さまざまな理由が考えられるが、W-CDMA を積極的に導入する理由が少ないというのが大きな要因だろう。

韓国で既に採用されている CDMA2000 1x の場合、EV-DO へグレードアップすることで W-CDMA より高速なデータ通信が可能。さらに GSM 程ではないにしても北米をはじめ、日本や中国などアジア圏で広く採用されているので、現状では W-CDMA より広いエリアでの海外ローミングが可能だ。

加えて EV-DO を利用した June (SKT) や Fimm (KTF) などのリッチコンテンツが、そこそこ成功を収めているため、新しく設備投資が必要な W-CDMA よりも、現状のサービス強化にキャリアが注力してしまっている。また、そもそも利用可能なエリアが広がってこないことや、いまだに端末の価格が 100 万ウォン（約 10 万円）超と高く、種類が少ないことも問題といえるだろう。韓国的一般ユーザ間で W-CDMA の知名度といえば、ほとんどないに等しい。

### 3.5G 「HSDPA」を見越した動き

W-CDMA 対応の端末も、今年も 5 種類ほど登場する予定だが、そのうちの 1 つが先日発表された「SCH-W120」だ。SCH-W120 の最大の特徴は、「3G→2G ハンドオーバー」技術を搭載した W-CDMA/CDMA2000 デュアル端末であるという点だ。

### 目線はすでに 3.5 世代へ——韓国 W-CDMA サービスの現状 (2/2)

Samsung のプレスリリースによると、3G→2G ハンドオーバーとは、「W-CDMA モジュールと CDMA2000 モジュールを同時に管理し、使用者が W-CDMA ネットで電話をかけた状態で、W-CDMA ネットがない地域へ移動しても端末機の W-CDMA モジュールで無線信号が弱くなるのを感知する」システムだという。信号の弱化を感知した後、「端末機が基地局と交信し、基地局は CDMA2000 システムへハンドオーバーというメッセージを下す。端末機はこのメッセージを受け、内部的に CDMA2000 モジュールを駆動させ、基地局で下されたとおりに通話チャンネルを開き、CDMA2000 へハンドオーバーし、通話を定常的に設定した後、W-CDMA モジュールの動作を止める」という仕組みとなっている。

W-CDMA のエリア拡張にはまだ時間がかかるが、この 3G-2G ハンドオーバー技術によって、既存のサービスを利用しつつ、W-CDMA への移行を進めることが可能となっている。また W-CDMA の特徴の 1 つでもある「テレビ電話」を定着させるべく、新しいプランの提供なども積極的に行い始めた。

SCH-W120 の登場前である 2 月 15 日、SKT では EV-DO 加入者と W-CDMA 加入者間で、テレビ電話ができるサービスの提供を発表している。W-CDMA 以降もサービスの中心をなすと予想されるテレビ電話の定着を狙ったものだ。また 7 日には、テレビ電話料金が 120 ウォン（約 12 円）／10 秒などの新料金プランも発表している。

さらに、海外事業者との国際ローミングも近く実現する見通しだ。22 日付の電子新聞によると、SKT 及び KTF は NTT ドコモと協力し、5 月末から「W-CDMA 国際ローミングサービス」を展開する予定との報道がなされている（4 月 25 日の記事参照）。当初は日本の W-CDMA 利用者向けのインバウンド・ローミングサービスとなり、詳細は未定だが FOMA ユーザが韓国内で音声通話やマルチメディアサービスが利用できるようになるという。もちろん韓国の W-CDMA 利用者向けや、日本以外の W-CDMA 採用国とのローミングサービスも検討されているようだ。ようやくキャリアもメーカーも W-CDMA の本格開始へ動き出したと思われるが、本格的な展開はもう少し先になるかもしれない。その理由は 3.5G ともいわれる「HSDPA」の導入だ。

最大 14.4MB の高速通信が可能で、W-CDMA 版 EV-DO ともいえるべき HSDPA は、最近ようやく商用化の目処が立ちはじめた。NTT ドコモも日本国内での導入を予定している（2 月 16 日の記事参照）。

しかし中国など W-CDMA の導入が遅れている国では、W-CDMA から一気に HSDPA まで導入する可能性が高いといわれている。W-CDMA の導入が進んでいない韓国のキャリアも「HSDPA の導入で一気に W-CDMA の本格導入」を目論んでおり、その時期は来年早々になるとも、早ければ今年末になるともいわれている。

現在はまだキャリア主導の様相を呈している W-CDMA 市場。しかし HSDPA の展開が予想される来年には、ハナロ通信や KT などが韓国発の高速無線ブロードバンド技術「WiBro」の開始を予定しており、新たな「無線ブロードバンド競争」も予想されている。

## 2006 年の韓国携帯電話トピック

地上波 DMB、Wibro、販売補助金、ドコモと KTF の提携——。2006 年に予定されている韓国の携帯トピックを概観していこう。

2006 年 01 月 10 日 18 時 31 分 更新

衛星／地上波 DMB の本格サービス開始や、Pantech の SKY 買収など、さまざまな出来事があった韓国の携帯電話市場だが、2006 年に入ってもさまざまなニュースを提供してくれそうだ。2006 年に控えているトピックを、時系列に挙げてみた。

1 月——ついに販売。地上波 DMB フォン

Pantech & Curitel の地上波 DMB フォン「PT-K1800」(KTF)、「PT-L1800」(LG Telecom)。地上波 DMB 用のリモコンが付属している。画面は 2.2 インチの QVGA TFT 液晶で、カメラは 130 万画素

昨年 12 月に商用サービスを開始した地上波 DMB だが、キャリアの収入モデルが確立しにくいことから対応携帯電話の販売が行われることはなかった。

しかし昨年 12 月末、LG Telecom (以下、LGT) が 2006 年 1 月から地上波 DMB 携帯の発売を発表すると、これに負けじと KTF も同様の発表を行った。

そして 1 月 1 日、ついに衛星 DMB 携帯電話が店頭に並んだ。最初に登場したのは LG 電子の LG-LD1200 (2005 年 10 月 25 日の記事参照)。テレビ画面のキャプチャ機能はもちろん、朝、地上波 DMB 放送が自動で起動して眠りから目覚めさせてくれる「モーニングコール」機能など、ユニークな機能も持つ。

このほか Samsung 電子も KTF 用に地上波 DMB フォン「SPH-B2300」の販売を開始した (2005 年 10 月 25 日の記事参照) ほか、Pantech & Curitel は LGT、KTF 両社に向けた端末を販売している。

LGT は MP3 プレーヤー付き携帯電話やモバイルバンキングなど、これまでも新サービスをどこよりも早く提供することで話題を巻き起こしてきた。KTF と LGT がサービスを開始したことで、地上波 DMB サービスを行っていないのは SK Telecom (以下、SKT) のみとなった。以前からユーザーの希望が多かった地上波 DMB フォンが販売されたことにより、2006 年は本当の意味での地上波 DMB サービスの開始年となりそうだ。

### 3 月——補助金制度、条件付きで再開

韓国では基本的に禁止とされていた携帯電話の補助金だが、今年 3 月末にそれを定めていた「電気通信事業法」の期限が切れる。これをきっかけに、昨年後半から補助金支給の有無を巡って政府で話し合いが行われていた (3 月 22 日の記事参照)。

韓国政府の情報通信部は昨年話し合いにより「同一のキャリアに 3 年以上属している人」「W-CDMA や WiBro など新技術が適用された端末」に限り補助金を許可し、この有効期限は 3 年後の 2009 年 3 月までにするという法案を出している。

しかしその後、公正取引委員会などさまざまな機関の審査を通過するごとに法案は修正され「同一キャリアに 2 年以上属している人」に対し 2 年後の 2008 年 3 月までの期限で許容した方がよいとの案も出されており、方向性が見えない状態となってしまった。

この結果は 2 月の国会で再度論議される予定で動向が注目されている。

### 4 月——国際標準、WiBro 商用サービス開始

4 月には通信会社の KT が、WiBro の商用サービスを開始する予定だ。

KT は昨年 11 月、釜山市で行われた APEC (アジア太平洋経済協力) で「KT WiBro」の試験サービスを行った。その際、Samsung 電子による WiBro 端末も初お目見えしている。(2005

年 11 月 17 日の記事参照)

KT は全国の主要都市で WiBro の利用が可能となるよう、今後 3 段階に分けて WiBro 網を構築していく予定だ。また WiBro だけでカバーできない区域では、公衆無線 LAN サービスの Nespot や、KTF の携帯電話網をも利用することで、全国どこでも無線インターネットが利用できる環境作りに努める。

8 月——MP3 メーカーの ReignCom も WiBro 市場参入

KT と WiBro に関して提携を行ったのが、「iriver」のブランド名で日本進出も果たしている MP3 プレーヤーメーカーの ReignCom だ。ReignCom は昨年ポータブルゲーム端末機市場への新規参入を宣言しているが、その端末は WiBro 対応となる予定だ。

同社のゲーム機はチップメーカーの NEXUS CHIP と、国立の研究機関である韓国電子通信研究所とともに共同開発されている。秒間 4000 万ポリゴンの処理能力を誇るグラフィックチップが搭載されるほか、WiBro 網だけでなく自宅や会社などの固定のブロードバンド網でもインターネットにアクセスができるようになるという。

ゲームは各コンテンツプロバイダとの協力で提供されるということだが、去年はゲームポータル「Netmarble」を運営する CJ インターネットと、ゲーム提供についての契約を行っている。このほか動画や音楽、チャットやコミュニティなど、さまざまなサービスを提供できるよう ReignCom や KT によるポータルサイトも用意する予定だ。

2006 年中——NTT ドコモと KTF の契約の成果が見えてくる

昨年 12 月、NTT ドコモは KTF に 5649 億ウォン（約 665 億円）を投資することで同社の発行済株式の 10%を取得した（2005 年 12 月 15 日の記事参照）。この提携によって NTT ドコモは KTF に対し韓国内の W-CDMA 網の構築支援を行うことを明らかにしているほか、W-CDMA 端末の共同開発も行う予定だ。

今年はエリア・端末共に盛り上がり欠けた韓国での W-CDMA だが、ドコモとの提携でなかなか進まない W-CDMA 網の構築が急速に進み、より高速な HSDPA の導入も大幅に進展する可能性もある。また日本人にとっても、ローミングエリアの充実だけでなく、両社による新しいサービスを享受できるなど、何かしらのメリットがあるかもしれない。

また両社は提携により新規グローバル事業の模索を行うともしているため、日韓両国に限らない、より広い範囲へのサービス拡大も十分に考えられそうだ。

<http://bizmakoto.jp/bizmobile/articles/0606/22/news015.html>

<http://bizmakoto.jp/bizmobile/articles/0703/08/news041.html>

<http://bizmakoto.jp/bizmobile/articles/0607/10/news084.html>

<http://bizmakoto.jp/bizmobile/articles/0512/15/news071.html>

<http://bizmakoto.jp/bizmobile/articles/0604/24/news057.html>